

明智光秀

ゆかりの地

岐阜県

美濃国の住人ときの随分衆也
明智十兵衛尉



1 光秀の墓(桔梗塚)

光秀は、土岐四郎基頼と地元の斎族の娘との間に中洞で生まれ、その後、明智城主明智光綱の養子となった。また、山崎の合戦で討ち死にしたのは影武者であり、中洞に落ち延びて住んでいたという伝承がある。桔梗塚には、「光秀の墓」と「五輪塔」がある。



2 大藁城跡

光秀の主流土岐氏は、室町時代の始め頃、美濃・尾張・伊勢の三国守護として権勢を誇り、戦国時代には大藁を本拠とした。斎藤道三に敗れて没落するまで土岐氏はここに屋を構えており、砦や土塁、屋敷跡が残されている。現在大藁地区には、土岐氏の菩提寺の南泉寺や氏神を祀る十五社神社などがある。



□ふれあいバザール



3 常任寺

若き光秀が仕えた斎藤道三ゆかりの寺。美濃国守護代の斎藤家出身であったこの寺の高僧と道三は少年時代からの知己で、道三は斎藤家に入りしており、やがて斎藤姓を名乗るようになる。なおこの寺は、道三以後の斎藤家三代の菩提寺になっている。



□岐阜市歴史博物館



4 岐阜城(稲葉山城)

光秀の主君、斎藤道三が土岐一族に代わり美濃の支配者となり、居城としたのが稲葉山城といわれたこの城である。道三の娘である濃姫の夫、織田信長はこの地を「岐阜」と改め、天下統一の拠点とした。光秀は信長にも重用された。

岐阜県には
光秀公にまつわる伝承が
各地に残っています。



5 西高木家陣屋跡

光秀は、1528年大垣市上石津町多良の土士の居城「多羅城」で進士信周の次男として生まれたとされている。「明智系図」には、母親は若狭国守護大名武田義統の妹と記されている。※多羅城推定地のうちの一つ



□奥の稲道むすびの地記念館



6 上石津郷土資料館

国史跡の西高木家陣屋跡に建つ資料館。上石津で出土した石器、民俗資料、動植物の標本を展示するほか、「鳥津の退き口」の紹介もしている。



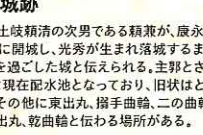
7 天龍寺

境内には明智氏歴代の墓所が整備されており、毎年6月には光秀供養祭が執り行われている。本堂には光秀の等身大で作られたという位牌が収められている。



8 明智城跡

美濃の守護、土岐頼清の次男である頼兼が、康永元年(1342)頃に開城し、光秀が生まれ落城するまでの約30年間を過ごした城と伝えられる。主郭とされている地点は現在配水池となっており、旧状とはとてもない。その他に東出丸、搦手曲輪、二の曲輪、三の曲輪、西出丸、乾曲輪と伝わる場所がある。



□花フェスタ記念公園



9 於牧の方墓所

光秀の母、於牧の方の墓所。悲運の最期をとうげた。於牧の方を偲び、里人の民が建立したとされている。1743年に建立された石塔には、「南無阿弥陀如来」と刻まれ、樹齢400年を超える老樹「高野槭」は神木として取り扱われている。



□日本大正村



10 落合砦

明知城が宝治元年(1247年)に築かれたころ、千疊敷台地に出城として砦が築かれたとされている。伝承によれば、光秀はこの砦で生まれとされ、産湯として使ったとされる井戸が現在残っている。また、地元明智町では、毎年5月3日に「光秀まつり」が開催されている。



11 鶴ヶ城跡

光秀を輩出した美濃源氏・土岐一族が隆き、以後土岐一族が城主であったと伝えられる山城、高野城、神鷲城、土岐城などとも呼ばれ、岐阜県史跡に指定されている。天正2年(1574)年の織田・武田の戦いで、対武田軍への最前線基地となった。



□ちやわん屋瑞浪



12 一日市場八幡神社

古くは高野と呼ばれた地で、美濃源氏・土岐一族によって「一日市場」という居館が築かれた場所と伝えられる。土岐氏発祥の地とされ、八幡神社境内には土岐氏の一族である「光秀の像」がある。

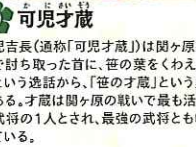


13 御嵩町



14 高山城跡

光秀の源流、土岐源氏の鎧を防衛するため、鎧を見下ろせる高台に砦を築いたのが、土岐高山城の始まりと考えられている。武田氏の侵攻により、戦いの舞台にもなった。高山城跡には現在、物見櫓が建てられ、土岐市街地を一望することができる。



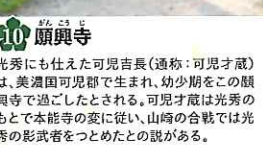
15 可児才蔵



16 土岐市



□土岐プレミアム・アウトレット



17 願興寺



18 妻木城跡

光秀の正室は、妻木城を本拠とした土岐明智氏の女性、照子(ひろこ)であったと言われている。妻木城は土岐明智氏である妻木藤右衛門広忠の本拠で、1658年に旗本妻木氏が断絶するまで使われていた。石垣や堀切などが残り、発掘調査によって建物跡が確認されている。